

## 学長歓迎メッセージ

令和 2 年度・令和 3 年度に山形大学に入学した学生のみなさん、本日、このような形で皆さんをお迎えする式を開催することは、山形大学にとって大きな喜びであります。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行によって、多くの社会的活動が制限されるなか、山形大学では感染拡大防止のために、2020 年と 2021 年の 2 年間にわたり、対面での入学式を開催することを見送りました。さらに、授業や課外活動の大部分がオンラインになるなど、大学に大きな夢を抱いて入学してきた皆さんにとって、大変に辛く苦しい思いをすることが多い学生生活が続きました。それでも、さまざまな不安や困難を乗り越えて、大学での学びを着実に続けてこられた皆さんを、山形大学の学生として心から誇らしく思います。本日の式は、皆さんの御入学以来の努力を讃えるとともに、皆さんが大学生活を共に過ごす仲間との絆をさらに深める機会となることを願って、開催しました。

実は、私も大学に入学した時に、皆さんと同じように入学式がありませんでした。その当時、日本の大学では暴力を伴う政治的な闘争が続いており、入学式や授業を安全に行える状況ではなかったのです。そのため、大学での学びはいきなりオリエンテーションから始まりました。自分たちの学年だけが、入学式がなかったことについて、今でも特別な思いがあります。

皆さんも、どうして自分が大学生になるときに限って、このようなことになったのか、複雑な気持ちがあると思います。しかし、皆さんは、自身の努力によって、with コロナの大学での新たな学びを作りあげた最初の世代であり、特別な存在です。この困難な時期を自分の力で乗り越えて大学生活を過ごしたことを、皆さんが、将来、誇りをもって語る日が来ると、私は信じています。まだ様々な不自由を感じる場面があるかもしれませんが、自分たちこそがコロナ禍での新しい大学を築いたという自信をもって、これからも前向きな気持ちで大学での学びに取り組んでください。

ところで、新型コロナウイルスの一日あたりの新規感染者数は、皆さんが入学された2020年4月、2021年4月に比べると、現在の方がはるかに多い状況です。それにも関わらず、対面でこのような式を開催できるのは、新型コロナウイルスの性質について、私たちがより深く知るようになり、ワクチンを開発し、適切な感染防止対策を講じることができるようになったからです。この世界には、新型コロナウイルスを始め、ウクライナで起きている戦争のように、私たちの社会を不安定化させる様々な脅威が存在します。しかし、私たちは、そのような脅威に対して、それを深く知ることによって、勇気をもって行動できるようになります。学生の皆さんと共に、私たち教職員も一丸となって、コロナ禍や社会的不安に立ち向かい、皆さんが一つでも多くの勇気ある行動を生み出せるように努力を続けます。本日の式は、まさにそのことを象徴するものと言えます。

いま、世界は社会が急速に変化する予測不能で不確実な時代に入ったと言われていています。その中で生きる皆さんには、さまざまな社会的問題や自分自身の人生について、大きな判断を迫られることが、これからも起こることでしょう。そのような時には、本日の入学式を思い出してください。社会や自分にとっての脅威や妨げがあるときは、それについて深く知ることが、私たちに前に進む力をもたらします。その意味において、皆さんが大学で学んでいることは全て、自分を取り巻く世界と自分自身をより深く「知る」ためにあると言えます。

山形大学では、持続可能な幸福社会の実現を目標にして、地域や世界の多様な人々や組織がつながり、教育、研究、社会との共創を行っています。これらの活動の中心となるのは、言うまでもなく学生の皆さんです。授業をはじめとする大学の学びのなかで、この世界に存在する多様な知に接し、それについて考え、行動することを通じて、自分の力を高め、自分の可能性を広げていただきたいと思います。

みなさんが、これからも山形大学で充実した日々を過ごされることを心より願い、私の歓迎の言葉といたします。

令和4年7月10日  
山形大学長 玉手英利